

第 8 回木曾川水系連絡導水路環境検討会 議事要旨

日 時：平成 21 年 6 月 26 日(金)

13:00～17:00

場 所：岐阜グランパレホテル

1. 開会

2. 主催者挨拶

3. 議事

(1) 報告事項

1) 第 7 回環境検討会議事録

- ・ 内容については了解したが、質疑の内容が明確に分かるように文章表現に工夫し、公表前に確認をとること。

2) 連絡導水路事業の状況について

- ・ 連絡導水路事業の状況について報告を受け、その内容を確認した。

(2) 本日の説明事項

1) 第 7 回環境検討会における意見への対応状況

- ① 第 7 回環境検討会における意見への対応状況について説明を受け、その内容を確認し、了承した。

2) ワーキンググループでの検討状況

- ① 水域環境ワーキンググループ(平成 21 年 5 月 22 日、平成 21 年 6 月 16 日開催)及び陸域環境ワーキンググループ(平成 21 年 6 月 17 日開催)における検討状況について報告を受け、その内容を確認した。

3) 調査・検討の実施状況

- ① 調査・検討の実施状況について審議し、以下の点を指摘した。
 - ・ 局所混合の「混合までの距離」の表現は「横断方向でほぼ一様となる距離」など、またその距離には「〇〇m 程度」とする等内容に合致した表現を検討すること。

- ・ 予測計算等における前提条件を明記すること。
- ・ 「影響は小さい」という予測の結果については、その判断基準を明記し、表現についても工夫すること。
- ・ 水環境（地下水の水位）の環境保全措置の効果は、地下水の水位の低下量を低減するとともに、その影響も小さくすることであるので、それらを考慮した表現とすること。
- ・ 典型性（陸域）で、環境類型区分の名称が大括りの表現になっているので、カッコ書き等で具体的な群落名を追記すること。
- ・ 典型性（河川域）の監視項目のうちの生息状況の変化については、原因が把握できるように、魚類の挙動や生理的な変化等を監視項目に加えることを検討すること。モニタリングについては「河川水辺の国勢調査」の活用も考慮すること。
- ・ 典型性（河川域）への影響については、放水口との位置関係が分かるような表現を検討すること。

4) 環境レポート（案）について

- ① 環境レポート（案）の素案の概要について説明を受け、今回の指摘事項を反映し、環境レポート（案）をとりまとめることについて了承した。

環境レポート（案）について審議し、以下の点を指摘した。

- ・ 実測に基づいた内容とシミュレーションに基づいた内容とが容易に区別して把握できるような表現に工夫すること。
- ・ 予測計算等における前提条件を明記すること。
- ・ 公表時には概要版が必要になると考える。

(3) 今後の予定

- ① 次回環境検討会は、環境レポート（案）を公表後、頂いた意見について事業者の考えを付し、環境レポートとして公表する前に行うこととした。

(4) 審議内容の確認

- ① 本日の審議について、議事要旨を確認した。

4. 閉会

以 上